

平成27年度 離島漁業再生支援事業実施状況

東京都が実施している離島漁業再生支援事業について、平成27年度の実施状況を公表します。

実施目的

東京都の離島は『漁業』が基幹産業です。しかし、輸送コストや生産資材の不足など、販売・生産面で不利な条件にあるほか、漁業者の減少や高齢化が進み、非常に厳しい状況にあります。このため、漁業の再生を図ることを目的として、漁業者が島の特色を生かして、漁場の生産力の向上や漁業の再生に関する実践的な取組を行っています。

実施概要

事業主体	集落協定数	協定参加世帯数	事業費
大島町	2	111	15,096千円
新島村	1	36	4,896千円
神津島村	1	98	13,328千円
御蔵島村	1	24	3,264千円
小笠原村	2	64	8,704千円
合計	7	333	45,288千円

取組概要

		大島町		新島村	神津島村	御蔵島村	小笠原村	
		大島	元町	式根島	神津島	御蔵島村	父島	母島
漁場の生産力の向上に関する取組	種苗放流							
	漁場の管理・改善	●	●		●	●		
	産卵場・育成場の整備				●			
	漁場監視		●	●		●	●	●
	その他							
漁業の隆盛に関する実践的な取組	新たな漁具・漁法の導入						●	
	新規漁業への着業				●			
	低・未利用資源の活用	●		●	●			
	品質の均一化に向けた取組							
	高付加価値化	●				●		
	流通体制改善					●	●	
	簡易加工					●		
	伝統漁法の取組				●			
	販路拡大	●		●		●		●
	その他	●	●					

大島町（おおしままち）

<大島漁業集落>

磯刈りによる藻場の管理

藻場の管理改善として、磯焼け防止及び資源確保の効率化が必要なため、各4地区（泉津・岡田・野増・波浮港）にて磯刈りを実施、海底の石をひっくり返す作業や、不必要な付着物を削る作業を行いました。また野増・波浮港の2地区では石灰藻刈りも実施し、集中的に石灰藻の除去作業を行い、海藻や貝を付着しやすくしました。

低・未利用資源の活用

商品の販路拡大、普及促進のため島内売店を運営しました。また、新たな手法として季節を限定したメニュー開発を行い再訪のきっかけ作りを図りました。その他、群馬県上野村農産物加工センターにおいてサバほぐし身のレトルト化を実施し商品強化を図り、秋川学校給食、都庁内食堂の西洋フード及びグリーンハウス等を訪問し販路拡大に努めました。



【磯刈り作業】



【石灰藻刈り作業】



【低・未利用資源の活用】

<元町漁業集落>

漁場の監視

島内の禁漁区域で、夏季の期間、密漁を防ぐために漁場の監視を行うとともに、禁漁区の線引きを示すブイを6箇所に設置しました。密漁の阻止だけでなく、遊泳者を含めた住民等の禁漁区に対する認識を高めました。

藻場の管理改善

海底の泥の中に魚礁が埋まってしまい、海藻等が付着しにくい状況のため、埋まった魚礁をひっくり返して（盤起こし）、海藻や貝を付着しやすくしました。

魚礁の選定（人工魚礁の設置）

新たな漁場となりそうな場所に、人工魚礁を試しに設置しました。設置後の調査により、貝の付着を確認、貝の住処としての効果がみられました。



【漁場監視】



【盤起こし作業】



【魚礁の設置】

新島村（にいじまむら）

< 式根島集落 >

漁場監視

漁場の環境保全と密猟防止のため、監視業務を実施しました。

低・未利用資源の活用と販路拡大

定置網等で水揚げした鮮魚を塩干物加工品等にし利用促進に努めました。

また、島内の常設売店での販売の他、島内外のイベントにも参加、PRと販路拡大に努めました。



【漁場監視：野伏漁港】



【低・未利用資源の活用】



【日の出町産業祭でのPR】

御蔵島村（みくらじまむら）

< 御蔵島村漁業集落 >

貝類の資源調査・漁場監視

バテイラ等のクボガイ科の貝類について、分布場所・生息数・成育状況を調査し、前年度調査と同様の地域に生息が集中していることを確認しました。

イセエビ漁やキンメダイ漁の禁漁期間等の制限が遵守されていることを確認するため、漁場監視を実施し、資源管理に努めました。

加工品の開発・流通体制の改善

キンメダイの骨まで食べられる干物、岩のり・ハンパのりの小分け焼海苔パック、サワラの燻製を新たに製造・販売しました。

給食用に加工した地場水産物を御蔵島村小中学校に納品し、地産地消に貢献しました。

水産物の冷凍ストック販売、ハンパのり・岩ノリ入りレトルトご飯の製造・販売を引き続き実施しました。



【クボガイ資源調査】



【漁場監視】



【骨まで食べられるキンメの干物】

神津島村（こうづしまむら）

< 神津島漁業集落 >

漁場の生産力の向上

アオリイカ産卵礁を設置し、漁場の生産力の向上を図りました。

資源の管理

漁獲量の減少を食い止める目的で害的生物（バラムツ・エイ等）の駆除を行いました。

又、昨年度同様キンメダイのタグ打ち（標識放流）を行い、漁場の資源管理・改善を図りました。

漁業再生の取組

キンメダイ一様依存の漁業形態の改善を目指し、新規漁法のヒラメ網漁と、伝統漁法だったウツボ漁に取組、新規漁業の着業を図りました。

未利用資源の活用

定置網等で捕獲されたにもかかわらず出荷されない雑魚に付加価値をつけて収入源とするため、未利用魚の加工品開発・品質向上に取り組みました。



【アオリイカ産卵礁設置】



【キンメダイタグ打ち】



【害敵駆除事業（エイ）】



【ヒラメ網漁（新規漁法）】



【ウツボ漁（伝統漁法）】



【未利用魚の加工】

小笠原村（おがさわらむら）

< 父島漁業集落 >

漁場監視

操業秩序の維持・密漁防止のため延べ40回の漁場監視を実施しました。

新たな漁具・漁法の導入

昨年度の漁法等調査より、音波集魚装置の導入が小笠原の漁業に有用ではないかという仮説を立て、今年度は縦はえ縄漁、はえ縄漁で試験操業を行いました。結果、音波集魚装置を使用した場合の方が不使用の時より漁獲数が多くなるという結果になりました。今後さらに別の漁法での導入効果を検証します。

流通体制の改善

新しい保温シートを導入し、魚の鮮度保持方法を改善しました。従来より保温効果が高く、出荷先でのごみ問題などもないことがわかりました。

5魚種について、最善の処理方法や保管方法、販売までの保管日数を明らかにするため、鮮度測定（K値）を行いました。同種の魚でも、船舶によってK値が違うことがわかり、取り扱い方法の統一など解決すべき課題が明確になりました。



【漁場監視】



【音波集魚装置】



【保温シートの導入】

< 母島漁業集落 >

漁場監視

操業秩序の維持・密漁防止のため14回の漁場監視を実施しました。

先進地視察

築地市場を含む全国7所の市場のニーズ及び魚価調査を行い、各市場で小笠原の主力魚種について意見聴取や現場視察を行いました。

- ・オナガの評判がとても良く、取引の継続要望を受けました。
- ・市場に入荷した魚の鮮度について、改善点もありましたが概ね良好でした。
- ・ソデイカを、よりニーズに沿った方法で解体・出荷する必要があるとわかりました。



【漁場監視】



【漁獲物供給拡大（市場調査）】

